

令和5年度第2回自立支援協議会こども部会 議事要旨

1. 開催日時 令和5年11月6日(月)午後2時～午後4時
2. 開催場所 市役所4階 会議室S5・6(オンラインと併用)
3. 出席者 (委員)*団体名のみ記載

教育センター、こども発達センター、浦安市自閉症協会、浦安市肢体不自由児・者親の会「どっこらしょ」、肢体不自由児きょうだいの会ぞうさん組、(福)パーソナル・アシスタンスとも、(福)佑啓会、(特非)アリスのうさぎ、(特非)かぷあ、(特非)発達わんぱく会、いずみサービス(株)、(株)ミスランディア、千葉県立市川特別支援学校、千葉県立船橋夏見特別支援学校、浦安市立中学校長会、母子保健課、こども家庭支援センター

(事務局)障がい事業課、障がい福祉課

4. 議事次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 第2回自立支援協議会の報告
 - (2) 第1回こども部会の振り返り
 - (3) 医ケア児・きょうだい児やその家族について
 - (4) こどもの暮らし(居場所)について
3. 閉会

5. 配布資料

- | | |
|---------|-----------------------|
| 議題1、2資料 | 第2回浦安市自立支援協議会報告 |
| 議題3資料 | 浦安市で暮らすある医療的ケア児の生活(2) |
| 議題3資料 | (当日資料)きょうだいの声 |
| 議題4資料 | こどもの暮らし(居場所)について |

6. 議事概要

(1) 第2回自立支援協議会の報告

■説明（リーダー）

第2回自立支援協議会で報告した内容について振り返りを行った。

■主な意見

特になし

(2) 第1回こども部会の振り返り

■説明（リーダー）

第1回こども部会の協議内容について振り返りを行い、事務局から医療的ケア児（以下、医ケア児）の基礎調査結果について報告した。

■主な意見

特になし

(3) 医ケア児・きょうだい児やその家族について

■説明（事務局・委員）

見識を深めるために、委員の経験をもとにお話頂いた。

①きょうだい児やその家族について

②医ケア児やその家族について

■主な意見・質疑応答

委：ほかの家族とのコミュニケーションについて、どこでどのようなつながりが生まれるのか。

→委：主に保育園・民間デイサービス・発達センターの保護者会や参観日やイベントで情報交換をする。当事者の家族同士の場合は、グループラインを使って情報交換やコミュニケーションをとる。

しかし全体的にコミュニケーション手段は限られていて、障がいの特性上あまり周りに知られたくない情報もあるので、困っていることをすべて解決できるような現状ではない。

委：学校でも、親御さんから当事者だけでなく、きょうだい児についても気にかけることが大切という意見を耳にするので、今回のお話も勉強になった。

委：一つの事例として、広報誌に当事者の子どもが載ることになったときに、きょうだい児が抵抗感を示したことがあった。

委：事業所として当事者以外の家族（親・きょうだい）が参加できるイベントを開催している。造形ワークショップなどでは、家族の中でそれぞれの良さや知らなかった面などを、再認識する機会となっている。

様々な状態の子どもがいるが、地域の中で医ケア児のことについて市民に知ってもらうことが大切だと思う。

委：きょうだい児が安心して話し合える場所とは、現状どのような場所がいえるか。

→委：人それぞれ知られたくないこともあるので、一概には言えないが、一つの例として同じ

境遇の人が作った「きょうだい児の会」があるのではないか。

委：話を共有することに抵抗を持つ人もいるので、場所だけ作っても人は集まらないと思う。

委：イベントの継続的な開催などで、話し合える人が増えていって初めて「居場所」というものになっていくと思う。

委：医ケア児の家族についての発表にあった「困っていても助けを求めるのが難しい」ということについて、具体的に聞きたい。

→委：①医ケア児といっても状態は様々で、問題を共有してもちゃんと理解してもらえないことがある。

②困っていることを言語化することが難しく、それぞれの人に合わせて、わかりやすい説明を心掛けるが、窓口など聞き手が属人化する中で、「言うだけ無駄」という心情に陥ってしまう。

(4) こどもの暮らし（居場所）について

■説明（事務局）

こどもの暮らし（居場所）について委員それぞれの立場から意見をもらった。

■主な意見

①不登校や引きこもりのこどもに関する事

委：理由も状況も複雑化・多様化する中、関係機関との連携も含め、一人一人の状況や気持ちに寄り添った対応が必要である。

委：不登校や引きこもりの理由から、関係機関と連携していくことが大切である。当人の生活を第一に支援を行っていき、担任が変わっても福祉と教育が連携することで切れ目のない支援を実施することを望んでいる。

委：引きこもりだと会うことが難しく、潜在化しやすいと思う。

②発達に心配のあるこどもに関する事

委：社会に出てから発達障がいに気づいたケースは、本人に情報が不足している。幼少期に発達障がいの情報に触れる機会がないので、成人以降の頼れる相談先が少ない。

委：「障がい」という言葉を使わない相談会など、誰でも気兼ねなく来ることのできるイベントを実施することで、早い段階から情報を得る手段を知ることができるのではないか。

③きょうだい児やヤングケアラーに関する事

委：当事者やその親だけでなく、きょうだい児も参加できるイベントを開催することで、同じ境遇の人とのつながりができたり、家族との意思疎通の場になるのではないか。

委：きょうだい児にヤングケアラーの意識がない場合があり、関係機関との連携・状況把握が困難である。

④医療的ケア児やその家族に関する事

委：民間事業者では急な受け入れに対応するための態勢を整えることが難しいこともあり、整備が進まない現状である。

委：看護職員の採用や人材の育成が課題である。

委：子ども一人一人に看護師がそれぞれ着くような体制ができるとよい。

委：基礎調査から分かった人数をもとに、看護師がどれくらい必要か把握し、市が医療機関と連携することで、人材の確保が行える仕組みを作ってもらえるとよい。

委：医ケア児を受け入れてくれるショートステイが浦安市内にあると、保護者に何かあったときなどに備えることができ、家族の負担も減らせる。

⑤その他

委：重い自閉症・行動障がいがある児童はサービスを受けられないことがあるので、受け入れ先・居場所・ケアも課題になってくる。